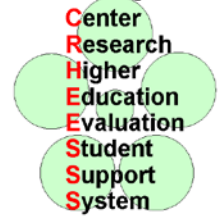


週刊センターニュース No.282



第282号(2009年10月26日) 毎週月曜日発行
発行：金沢大学 大学教育開発・支援センター
URL：http://www.kanazawa-u.ac.jp/faculty/daikyou_rche/index.htm

〇〇〇 第248回共同学習会のご案内 〇〇〇

日時：11月2日(月) 13時～14時30分 ※通常の時間、会場と異なりますのでご注意ください。

会場：角間キャンパス総合教育2号館F10教室

テーマ：「大学・社会生活論「おとなの交通マナー」のためのデジタルコンテンツについて」

企画：西山宣昭(大学教育開発・支援センター)

報告者：川島春菜氏(株)アイ・ツー

趣旨：1年前期の共通教育科目「大学・社会生活論」の授業項目の1つである「おとなの交通マナー」については、日本自動車連盟金沢支部の全面的協力により今年度も対面授業を実施しているが、より多くの学生に交通安全教育を実施する方策としてe-Learning教材の活用が考えられる。今回、(株)アイ・ツーの川島氏より交通安全教育用として開発されたコンテンツを紹介いただき、大学・社会生活論の教材としての可能性について議論する。各学類の大学・社会生活論担当者には是非ご参加をお願いしたい。

〇〇〇 第6回専門分野別教育開発セミナーのご案内 〇〇〇

テーマ：「国際標準の大学教育 いかに関心の専門を英語で教えるか」

日時：平成21年11月21日(土) 13時～17時10分

会場：金沢大学サテライトプラザ3階集会室

趣旨：政治、経済、理工学、医薬、環境など様々な分野でグローバル化が進み、厳しい国際競争下にある産業界も日本人学生と海外の学生を区別することなく質の高い人材を獲得しようとする動きの中で、大学教育の国際通用性を担保する英語で専門を教える授業は必須となってきている。大学院を中心に英語による授業は増加する傾向にあるが、国家戦略として「留学生30万人計画」が実施に移される中、今後は多くの大学で国際標準の英語による大学院教育を拡充させるとともに、学士課程教育における英語による授業の実施についても踏み込んでいく必要がでてくるであろう。

英語で教えることが大学教員の必須のスキルとなる時、いかに英語で授業を行ったらいいであろうか？ 英語での論文執筆や国際会議での発表に慣れている教員にとっても英語での授業は容易ではないであろう。留学生を対象としたクラス、日本人学生と留学生とが混在するクラス、いずれにおいても受講者間の英語力のばらつきは授業設計上の大きな問題となる。また、討論を組み込んだ授業の組み立ても課題である。

本セミナーでは、学内外より英語で教える授業を実践しておられる講師の方々から授業内容、方法についてご教示いただくとともに、教員の英語力以外の授業運営の部分について、すなわち英語による授業のFDの側面についても議論したい。

プログラム：13時10分～14時10分 基調講演「英語による授業のノウハウ共有」

中井俊樹(名古屋大学高等教育研究センター准教授)

14時20分～15時50分 学内事例報告

「外国人教員から見た英語による授業運営」Ertl John Josef(外国語教育研究センター准教授)

「環境をテーマとするジョイントクラスの実践報告」結城 正美(外国語教育研究センター准教授)

「工学系大学院における英語による専門教育の実践報告」中山 謙二(自然科学研究科教授)

申込み方法：電子メール又はファックスで11月18日(水)までに、氏名(ふりがな)、所属、連絡先(電子メールアドレスまたは電話番号)を明記の上、下記まで。

大学教育開発・支援センター(西山) E-mail: nnishiya@ge.kanazawa-u.ac.jp FAX: 076-234-4172

〇〇〇 授業情報保障と「学生による授業評価」 〇〇〇

具体的に授業の場面を思い浮かべよう。まず、教員が口頭で説明しながら、黒板に書き、プロジェクターで投影し、プリントを配付する。文字や映像と音声による授業である。ここで、聴覚に障害のある受講生がいる場合には、次の理由により、教員は授業にある工夫を加える必要が生じる。

聴覚障害学生は、文字や映像は視覚情報として受信できるが、音声情報は聴き取れない。また、黒板やスクリーン上

の文字・映像情報の多くも、そもそも単独でそこに示されているものではなく、教員の音声による説明が主となり、あるいは従となって、つまり音声情報と一対のものとして、授業内容を構成する。配付プリントの内容も、教員による何らかの説明があって初めて理解可能な文字情報となる。聴覚障害学生は、授業内容を理解するためには、他の受講生と異なり、どうしても、音声情報を手話によりあるいはノートテイクにより、視覚情報として受け取る必要があるのである。

このように考えると、授業情報保障は、「教員が行う授業に対する支援」という性格を持つことに気づかされる。教室の一番後ろの学生に声を届けるためにマイクが用意されているのと同様、授業遂行に不可欠の手段として手話やノートテイクがある。手話通訳者やノートテイカーは、手話ができない教員にとって、みずからの職務遂行を助けてくれる授業補助者（TA）とも言える。ノートテイカー無しには授業は成立しないことを考えると、大学が必須のインフラとして整備すべきものである。そのインフラがあって初めて教員は安心して授業ができるのであり、そして教員自身には、ノートテイカーが書き取りやすい説明をするという新たな責務も生じる。

さて、教育基本法第9条により、大学を含む全ての学校の教員は「絶えず研究と修養に励み、その職責の遂行に努めなければならない」。そして、大学は、大学設置基準第25条の3により、教育内容等の改善、すなわち「授業の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修及び研究を実施すること（FD）を義務づけられている。個々の大学教員は、「大学における教育を担当するにふさわしい教育上の能力」（大学設置基準14条）を維持向上させるために、大学等が組織として実施するFDを「研修の充実」の機会として活用しながら、授業内容・方法の改善について研究し、その成果を実践することになる。

大学等の授業の方法は、設置基準では「講義、演習、実験、実習若しくは実技」と規定されているだけだが、専門職大学院設置基準では授業の方法等と題して「事例研究、現地調査又は双方向若しくは多方向に行われる討論若しくは質疑応答その他の適切な方法」を義務づけている。専門職大学院に限らず、授業が、教員・学生間の情報のやりとりから構成され、基本的には、教員が学生に授業内容を伝え、学生に問いかけ、学生の回答により、その理解を確かめるといふ過程をたどる。大学が組織として行う教育内容等の改善は、授業内容そのものの改善と、授業方法の改善、すなわち、授業内容の伝え方、授業内容理解に関する確認方法の改善を意味するのであり、設置基準のFD義務づけの文言もそれを示している。そして、インフラとしての授業情報保障、ノートテイカー整備もこの観点から当然のこととして導き出される。

この観点から、中教審答申『学士課程教育の構築に向けて』平成20年12月24日が私たちに直接役に立つのは、「教育方法の改善を図る。的確な授業設計を行った上で、例えば、以下のような取組について検討する。・・・学習管理システム(LMS: Learning Management System)を利用した事前・事後学習の推進、・・・講義とインターネット上でのグループワークの組合せ(いわゆるブレンディッド型学習)の導入、・携帯端末を活用した学生応答・理解度把握システム(いわゆるクリッカー技術)による双方向型授業の展開」という具体的な授業方法改善の提案である。当センターがクリッカー活用を全学に提案しつづけているのも当然のことと理解していただけよう。

授業改善課題を見つけるために、ほとんど全ての大学で実施されているのが、「学生による授業評価」である。例えば、「教員の声ははっきりと聞き取れましたか」「板書は分かりやすかったですか」「プロジェクター等は必要に応じ活用されていましたか」「この授業の内容説明は分かりやすかったですか」・・・という具合に設問が続く。方法について受講生から肯定的な評価を受ける授業であって初めて、単位認定における「客観性及び厳格性を確保する」（大学設置基準25条の2）ための前提条件を満たす授業であることになる。授業評価の結果は、教員にとって、学生の協力によって得られた課題発見のための貴重な材料であり、これを参考に授業改善という課題解決に向けた考察・研究・実践を行うことが、大学の個々の教員の責務となる。

授業内容がどれほど優れていても、例えば、ノートテイカーがいないことによって、それが学生にきちんと伝わらなかつたり、理解不可能であれば、そもそも大学等の授業として適切さを欠く。この点の認識から全てのFDの意義付けが可能になると思われるのである。
(文責：教育支援システム研究部門教授 青野 透)

○●○平成21年度金沢大学資料館特別講演会「アーカイブズと自校教育」開催のご案内○●○

日時:平成21年11月5日(木) 13:00~15:00

場所:金沢大学角間キャンパス 中央図書館AV室

主催:金沢大学資料館創基150年記念事業準備委員会、後援:大学教育開発・支援センター

講師:寺崎昌男氏(立教学院本部調査役・東京大学名誉教授)

プログラム:13:00開始(受付12:30)

13:10~ ミニ講演「金沢大学150年の歴史と自校史教育プラン」 金沢大学資料館長 古畑徹

13:30~ 講演「大学改革とアーカイブズ・自校教育の役割」

立教学院本部調査役・東京大学名誉教授 寺崎昌男